

2025 年 7 月 13 日

あすならホーム恋の窪 2025年度第1回運営推進会議 議事録

介護・医療連携推進会議
定期巡回随時対応型訪問介護看護
運営懇談会

あすならハイツ恋の窪
10:30～11:00

1. 運営推進委員

<恋の窪 1 丁目自治会長>	欠席
<大安寺西民生児童委員>	欠席
<三笠地域包括支援センター>	杉原様(三笠包括センター長)
<地域ドクター医療関係薬剤師>	嶺井様(みねい歯科)
<利用者・家族>	森田様 前田様 毛利様
<ならコープ>	欠席
<まちかどネット恋の窪代表>	欠席
ハイツ恋の窪職員	施設長 仲村 事務長 山尾
各部門管理者	(デイサービス)山村 (定期巡回)森本 (ケアプランセンター)欠席 (ショートステイ)欠席
司会進行	山尾
議事録作成	山尾

2. 協同福祉会からの報告（前回の会議以降）

① あすならハイツ恋の窪

- ・あすならサロン 0 と 5 のつく日につき 6 回の実施
- ・こども広場 月水金の週 3 回の実施
- ・ユニバーサル就労 ハイツ恋の窪ショートステイで 1 名(週 2 日)就労しています。
- ・BCP(事業継続計画)に基づく防災避難訓練の実施
- ・社会福祉法人こぶしの会「こっから」でおやつ・食パンの購入
- ・Kao 毎週火曜日に洗剤の量り売りに来られます。
- ・走るデパ地下 7月24日14時～
- ・7月19日 サポートハウスにて映画 8月は子ども食堂とあわせて集まる機会を検討中。

3. 恋の窪定期巡回随時対応型訪問介護看護

	男性	女性	人数合計
要介護1	4(2)	23(17)	27(19)
要介護2	10(7)	9(8)	19(15)
要介護3	1(1)	5(5)	6(6)
要介護4	3(3)	5(5)	8(8)
要介護5	2(1)	1(1)	3(2)
合計	20(14)	43(36)	63(50)

- ・訪問リハビリ※PT 訪問 6月 24件
- ・平均介護度 2.0

(2025年7月13日現在)

現在登録数は63名 その内、体調を崩され入院されている方が1名
訪問した際に様子の違いに気づき、主治医の先生に連絡。緊急で往診に来てくださり、
先生とご家族さんの協力のもと、救急搬送することになり、現在入院されている。

夜中に外に出られたり、近所の家の玄関をノックされたりした方がおられた。
その近所に住まわれている方が気にかけて、訪問した際に声をかけてくださり、日中に
相談するところとして、あすならハイツ恋の窪の連絡先を伝えた。現在、家族さんの協力
のもと、どのように見守っていくか話し合い、連携をしていく。

介護事故

服薬ミスが多いため、服薬ミス「誤薬」を防止に関する対策会議を部署内で行った。
思い込みと確認不足、情報共有の不足、管理方法の問題が挙げられ、それぞれの対策と
して、朝、昼、夕で色分けしたり、目で見てわかるカードを作成したりして、確認不足を防ぎ、
お互いに声を掛け合い、口頭での確認をすることで情報共有不足を解消し、事務所で看
護士が管理している薬のルールを明確にすることで、間違ってヘルパーが薬を持ち出す
ことを防いでいくと話合った。配薬のマニュアルにもある、日付や名前の読み上げも徹
底していくと決めた。

4.

定期巡回随時対応型訪問介護看護サービスの運営状況報告および意見交換

【サービス概要と利用状況】

登録者数は 63 名(うち 1 名入院中)。利用者は女性が圧倒的に多い。

要介護 1・2 の利用者が多く、安否確認や掃除・買い物といった生活支援が中心。一方で、必要に応じて 1 日に複数回の排泄・食事介助も実施している。

利用回数に制限はなく、利用者の状態に応じて柔軟にサービスを提供できる点が特徴。

【看護・リハビリとの連携】

登録者 63 名のうち 50 名(約 8 割)が看護師の訪問を利用しており、体調管理や服薬確認、医療機関連携を担っている。

理学療法士 2 名が在籍し、看護利用者のうち 24 名に対して訪問リハビリも提供している。

【事例報告】

緊急時対応事例：訪問したヘルパーが利用者の普段と異なる痛みの訴えに気づき、速やかに主治医に連絡。主治医が往診し、救急搬送を手配した結果、大事に至らずに済んだ。日々の訪問により、細かな変化を察知できた好事例である。

地域連携事例：利用者が夜間に近隣の家ドアを叩いて回る等の行動があり、心配した近隣住民から事業者へ相談があった。これを受け、家族の同意のもと、近隣住民に事業者の連絡先を伝え、地域全体で見守る連携体制を構築できた。

【課題報告：服薬事故とその対策】

発生事案：翌朝の薬を夕方 に誤って服用させるなどの服薬ミスが複数件発生した。

原因分析：

スタッフの慣れによる思い込みと確認不足。

スタッフ間の情報共有の不足。

服薬管理を看護師に任せきりにし、ヘルパーが管理状況を把握していなかった。

確認の徹底：配薬マニュアルに基づき、利用者の名前、日付、服用タイミングを声に出して本人と共に確認する手順を徹底する。

視覚的工夫：時間帯ごとに薬袋を色分けする、注意喚起カードを用いるなど、誤認を防ぐ工夫を導入する。

情報共有の強化：記録だけでなく口頭での確認も行い、スタッフ間の情報共有を密にする。

管理体制の共有：ヘルパーも看護師による薬の管理方法を把握し、チーム全体で誤りを防ぐ。

方針：今後も事故発生時には速やかに原因を分析し、対策を講じる会議を開き、事故ゼロを目指す。

【意見交換】

歯科医師からの要望： 往診の依頼があった際、事前に利用者の口腔内の状況を写真で送ってもらえれば、よりの確な準備(機材選定など)ができるため、情報共有を密にしてほしいとの要望があった。

事業者側の対応： 情報セキュリティに配慮した法人用メールアドレスを活用し、医療機関との連携を強化していく方針を示した。

利用者家族からの意見：

実際にサービスを利用している家族から「99 歳の母が快適に暮らしており、サービスに満足している」との感謝の言葉があった。

一方で、別の利用者からは「会議の開催趣旨が事前に十分に伝わっていなかった」との指摘があり、今後の案内方法の改善が課題として挙げられた。

4. 今後の予定

外部評価の実施： 11 月頃、サービス品質向上のため利用者・家族へアンケート調査を実施する。

第 2 回運営推進会議の開催： 2026 年 1 月か 2 月頃に、アンケート結果や外部評価を踏まえた第 2 回の会議を開催する予定。詳細は後日通知する。

以上